



平成30年3月

第158号

かけはし

ケアハウスあじさい園

URL: <http://www.ajisaien.or.jp/>

法隆寺の釈迦三尊像は、中央に釈迦如来、左に文殊菩薩、右に普賢菩薩が配置され、文殊菩薩は智慧の象徴、普賢菩薩は修行の象徴、お釈迦さまのように悟りを開くためには、智慧と修行のバランスが必要であるという意味がこめられています。

文殊菩薩と言えば、「阿部文珠院」「三人よれば文殊の知恵」と学問の神様として信仰されています。智慧は本来、「悟りを開くための方法」「真理を見極める認識力」でしたが、いつの間にか一般的な知恵や知識の象徴となりました。

さて、その文殊菩薩、「供養したいと思うならば、文殊菩薩は、貧窮孤独苦悩の衆生となり現れるであろうから、彼らに供給することは文殊菩薩を供養することになる」といわれます。文殊菩薩をお祀りして、人々を救い教化し、みなしごを養育することを祈願する法会を、その昔文殊会（もんじゅえ）といいました。起源は淳和天皇の頃、奈良の元興寺と大安寺において、飯を包み、菜を加えて施す社会福祉事業として始まりました。やがて国家恒例となり諸国で行われましたが、平安期末期に衰退しました。興福寺では839年より始められ、今もなお4月25日興福寺東金堂にて文殊会が開かれ、かわいらしいお子たちが三条通りを五重の塔までねり歩きます。

又、近鉄奈良駅噴水の行基さんは「文殊菩薩の化身」と呼ばれています。ある時、行基さんが温泉に入っていた病人に「私の体の腫れの膿を吸い出してほしい」と頼まれ、行基さんは言われるとおりにしました。すると病人の身体から金色に輝く仏様が現れ、「あなたの慈悲深さに感動しました。私はこの温泉の行者です。この温泉を民衆に開放し、多くの病人の人を救ってあげて下さい。」と言われたのです。

奈良時代の光明皇后もしかりです。

この地で先人たちの功績に感謝しつつ、私たちも福祉の発展に寄与して参りたいと存じます。



2018/3/4

いとばた会（ひな祭り会）
三月四日（日）

今月のいとばた会は、ひな祭り会とし、おひなさんにちなんだ塗り絵をして頂き、おひなさんの歌を歌い、お祝いのおやつを召し上がって頂きました。
皆さん、幼い頃を思い出して、和やかな一時を過ごして下さいました。

3月 行事予定

- 4(日) いとばた会
- 6(火) 指編み教室
- 14(水) 食事会
- 15(木) 防災訓練
- 19(月) 天理教校雅楽
- 23(金) のこのこ教室
- 27(火) 防火訓練

《感染症予防対策 ご協力をお願いします》

もうすぐ春と言えども、まだまだ寒い日が続きます。引き続き感染症予防にご協力お願い致します。どうぞ、お身体大切に・・・。